



がん遺伝子パネル検査に基づく去勢抵抗性前立腺がん治療成績の後方視的研究

2022年01月01日から2027年03月31日までに去勢抵抗性前立腺がん（ホルモン抵抗性前立腺がん）のために遺伝子パネル検査を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「がん遺伝子パネル検査に基づく去勢抵抗性前立腺がん治療成績の後方視的研究」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2022年01月01日より2027年03月31日までに日本医科大学付属病院泌尿器科にて、去勢抵抗性前立腺がんのために遺伝子パネル検査を受けられた患者さんの治療成績を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただきず、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：がん遺伝子パネル検査に基づく去勢抵抗性前立腺がん治療成績の後方視的研究

研究期間：研究実施許可日～2028年03月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 泌尿器科 大学院教授 近藤 幸尋

(2) 研究の意義、目的について

前立腺がんの一次ホルモン療法が効かなくなった去勢抵抗性前立腺がん（ホルモン抵抗性前立腺がん）の治療は、抗がん剤であるドセタキセルやステロイドや女性ホルモン剤に限られていました。近年では、新規抗アンドロゲン剤やアンドロゲン合成阻害薬およびタキサン系の新規抗がん剤（カバジタキセル）、ラジウム223が承認され臨床応用できるようになりました。一方で、一人一人の患者さんの状態に合わせて、最適な治療を行うことは最も大切なことです。本研究は、日本医科大学付属病院泌尿器科にてがん遺伝子パネル検査を施行した去勢抵抗性前立腺がん患者さんを対象として、検査結果に基づき新たな治療法を明らかにすることを目的といたします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2022年01月01日から2027年03月31日までに日本医科大学付属病院泌尿器科にて、がん遺伝子パネル検査を受けられた患者さんのカルテ情報や放射線画像や病理検査結果などを評価し、それぞれの治療成績について解析します。この研究は、患者さんの以下の情報を用いて行われます。

情報：年齢、性別、把握可能な診療録データ（臨床情報、採血データ（WBC、RBC、Plt、Ht、血液像、GOT、GPT、BUN、Cre、Na、K、Cl、Ca、GOT、GPT、ALP、LDH、TP、Alb、CRP、PSA、1-CTP、BAP）、画像情報（CT、MRI、超音波）、病理検査の結果（生検標本、全摘標本）」、実臨床で得られたがん遺伝子パネル検査の結果（検査の種類や遺伝子情報）

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 泌尿器科 講師 赤塚 純

〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24299

メールアドレス：s00-001@nms.ac.jp